

## “今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

## 最初のISS構成要素打上げから2048日経過しました 第9次長期滞在クルーのISS滞在は70日経過しました ISS動向

6月25日午前6時56分から開始された船外活動は、第9次長期滞在クルーのフィンク宇宙飛行士のロシア製宇宙服の主酸素タンクが予想以上に速く減圧したため、エアロックのハッチを開けてからおよそ14分で中止しハッチを閉じました。

ロシアの管制官達は、クルーの支援を受けながら酸素タンクが予想外に減圧した原因を調査し、宇宙服の中に酸素を送り込む注入スイッチ(injector switch)が原因であると結論づけました。

船外活動前には通常、宇宙服の機能確認のためにチェック手順として行われている注入スイッチを操作して、表示装置の状態を確認して元に戻しますが、このスイッチが元の状態に戻ってなく、通常よりも酸素放出量が多いままの状態であったとのことです。このため、宇宙服の状態にも問題はなく、次回船外活動には同じ宇宙服を使う予定です。

次回船外活動は、米国時間6月30日に行うことで調整中です。最終的には同6月29日のISSミッション・マネジメント・チーム会議で決定する予定です。



ロシア製宇宙服とフィンク宇宙飛行士



船外活動の状況について議論する米国のフライトディレクター(米国ヒューストン、シャトル・フライト・コントロール・ルーム)

## “スペースシャトル飛行再開に向けて”

## スペースシャトル・ディスカバリー号の現状

NASAケネディ宇宙センターのオービタ整備施設(Orbiter Processing Facility: OPF)でのディスカバリー号の準備状況についてお知らせします。

ディスカバリー号は、電源系の配線などを行うために米国時間6月2日から1ヶ月間の電源停止期間に入っています。

この期間中に、オービタ・ブーム・センサシステムと外部燃料タンク(ET)分離撮影カメラの配線の設置、翼前縁センサーの取り付けが行われています。

前部姿勢制御システム(FRCS)は同6月23日に取り付けられました。

出典: <http://www-pao.ksc.nasa.gov/kscpao/status/stsstat/current.htm>



ブームセンサ

©MacDonald Dettwiler

オービタに搭載されたブームセンサ(イラスト)



©MacDonald Dettwiler

ブームセンサでタイトルの検査をしている様子(イラスト)



ディスカバリー号への前部姿勢制御システム(FRCS)の取り付け作業

## “トピック”

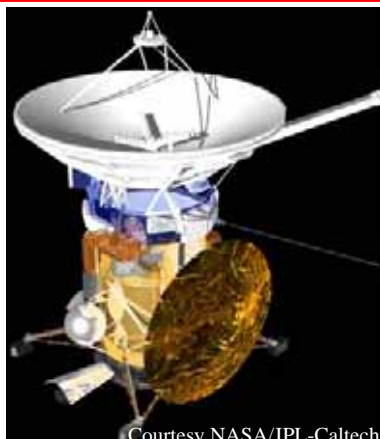
## 土星探査機カッシーニ、土星到着間近

1997年10月15日に米国から打ち上げられたNASA/ヨーロッパ宇宙機関(ESA)/イタリア宇宙機関(ASI)の共同による土星探査機「カッシーニ」が、7年間の旅の末、土星に到着します。

2004年7月1日に土星の輪を通過し土星の周回軌道に乗る予定です。今後4年間かけて土星とその輪及び土星の衛星の調査を行う予定です。

2004年12月には、本体からホイヘンス探査機が切り離され、2005年1月15日にはホイヘンス探査機が土星の衛星タイタンにパラシュート降下します。タイタンの大気はほぼ40億年前の原始地球と同等の成分の大気が閉じこめられていると考えられており、タイタンの大気を調査することで、原始地球の大気の実態が明らかになると期待されています。

関連: <http://saturn.jpl.nasa.gov/>



Courtesy NASA/JPL-Caltech.

カッシーニ探査機イラスト



Courtesy NASA/JPL-Caltech.

カッシーニより撮影した土星の輪



Courtesy NASA/JPL-Caltech.

カッシーニより撮影した土星全景

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール [kibo-pao@jaxa.jp](mailto:kibo-pao@jaxa.jp)

ウィークリーニュースメーリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。